

## 「安倍総理はなぜ大胆な財政政策を打てずにいるのですか？」

平成 27 年 1 月 13 日

### ●中庸さんからの質問

経済に関する質問が以前もありましたが、西田議員の苦しい立場も分かった上で自民党内の状況を質問させて下さい。現在日本政府は、藤井（京都大学）先生を内閣官房参与に抜擢し、ポールクルーグマン教授から助言を得るなど、一見西田先生のような方の意見を重要視しているようにも見えますが、その一方で竹中平蔵のような時代遅れな新自由主義者を産業競争力会議に起用したりしています。政治が YES & NO で決められるほど簡単な物では無いことは承知していますが、このまま金融政策だけに重きを置くような状況が続けば、いずれ無意味な金融バブルがおきてしまうのではないかと心配しています。そこで質問です。

1. 西田先生から見て安倍総理は財政政策の重要性、また経済を理解していると思いますか？
2. 1. がそうである場合、安倍総理はなぜ大胆な財政政策を打てずにいるのですか？

安倍総理の人格は未だ信じていますが、このまま間違った経済政策が続くようなら、安倍総理を支持していた若年層も離れて行ってしまおうと思います。党内の事を言うには苦しい立場ではあると思いますが、皆の気持ちが晴れるようなお答えを期待しております。

### ●西田昌司の答え

自民党内の議論が最近随分と変わってきています。地元に戻ればアベノミクスが十分に効果を発揮していないことは各議員が肌で感じていますし、地元のいろいろな声を聞けば財政出動の必要性は誰にも明らかであり、これ

までは「プライマリーバランスの黒字化」にこだわっていた議員も、毎年の財政の赤字・黒字に囚われ過ぎると経済が長期的に萎縮してしまうことに気付き始めています。

しかし、財政出動することによるプライマリーバランス悪化の拒否反応は根強いものがあり、どうしても短期的な財政収支に囚われて歳出カットといった発想になりがちですが、緊縮財政に傾けば消費増税の延期をしたところで GDP が伸びずに税収も増えず、デフレからの脱却も出来ないことを私は党内で強く訴えてきました。

昨年の年末に私と藤井先生は安倍総理にお会いして、プライマリーバランスの黒字化ではなく「政府の負債対名目 GDP 比率の引き下げ」を目標とすべきとお話をしましたが非常によく理解していらっしゃいましたし、その後に私と藤井先生は稲田朋美政調会長にもお会いして同様のお話をしましたが、稲田会長も非常によく理解していらっしゃいました。最近の党内の議論を見ているとこれから変わってくると思います。

何と言っても経済の立て直しが最重要との認識が自民党内に漲っており、これから積極的な財政出動がどんどん打ち出されてくると思いますので、是非ご期待下さい。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>